

第IV部門 飛騨高山における観光客の経路パターンと交通課題

いであ株式会社 大阪支社 正会員 ○片柳 澄明  
 福井工業大学 建設工学科 正会員 和田 章仁

1. 研究の背景

近年国内の観光は、「安」「近」「短」（安価、近距離、短時間）の傾向を強くしており、歴史的町並みや社寺・史跡を有する歴史都市においては観光客が増加傾向であり、自家用車などによる観光が多くを占めていると考えられる。

このようなことから、観光客にとって観光地が非日常的な空間であることから、車での走行や歩行には不慣れであり、さらに歴史都市であるゆえに市街地の道路が狭隘かつ不整形であることから、高山市においても交通事故は県内の他都市よりも発生件数、死傷者数とも伸び率が高くなっている。

2. 研究の目的

本研究では観光地、とくに高山市を対象とした観光活性化に資するため、安全かつ快適な都市空間を目指した交通体系の方向性を探ろうとするものである。このため高山市において観光客を対象とした観光交通に関するアンケート調査を実施し、観光ルートと交通課題を把握するものである。

3. 調査概要

岐阜県高山市三町周辺において、平成18年7月21日（金）および22日（土）に観光客を対象としてアンケートを配布し、回収は郵送とした。600票配布した結果306票回収し、有効回収票数は300票（回収率50.0%）であった。アンケート内容は、個人属性（性別、年齢、居住地）、旅行形態、訪問回数、旅程、滞在時間、訪問目的、交通手段、駐車場探しの難易度、交通安全および自由記述である。

4. 調査結果

(1) 観光ルートの類型化と滞在時間

観光客の観光ルートを類型化したものが図-1である。回遊型が一番高い割合で45.4%、順に混合型、往

パターン	名称	サンプル	%
	回遊型	134人	45.4%
	往復型	64人	21.7%
	混合型	97人	32.9%
合計		295人	100.0%

図-1 観光ルートの類型化

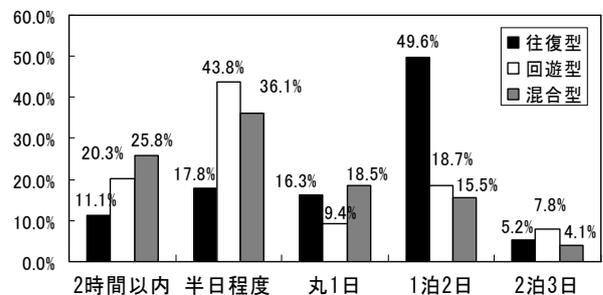


図-2 旅行パターンと滞在時間

復型となっている。図-2は、経路パターンと高山での滞在時間の関係をグラフに表したものである。滞在時間の短い2時間以内及び半日程度では往復型が低く、回遊型、混合型が比較的高率である。一方、滞在時間の長い1泊2日をみると、往復型が約半数を占めており、回遊型や混合型と大きな差があることがわかる。

これらから、高山での往復型の観光客の滞在状況は1泊2日が目立っていることから、往復型では目的地を高山に定めて他の観光地を見ずに、ゆっくり高山を観光していると考えられる。一方、回遊型と混合型はツアーなどの団体旅行で多くの観光地を訪問する中で、その立寄地の一つとして短時間高山を訪問していることが考えられる。

(2) 高山への交通手段と駐車場探しの難易度

高山までの交通手段は図-3に示すように、自家用車利用者が4割を超えており、JR線利用者を大きく上回っていた。また、貸切バスの利用者が3割で、JR線の利用者より高い割合であった。このことから貸切

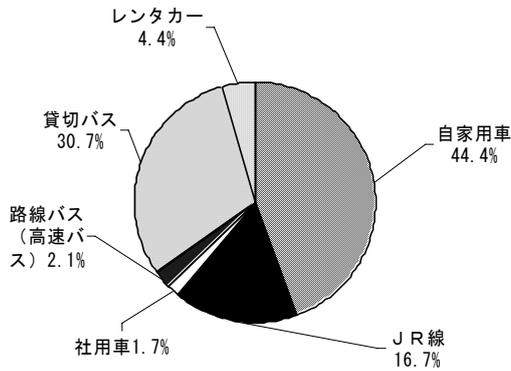


図-3 高山までの交通手段

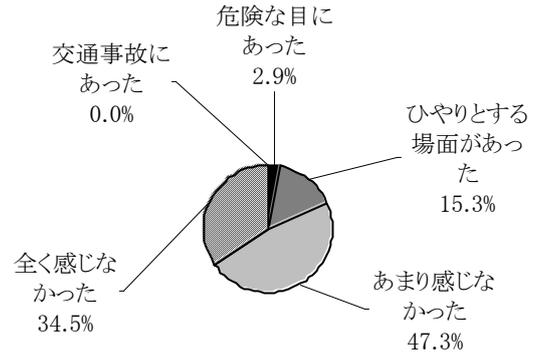


図-5 交通事故の危険度

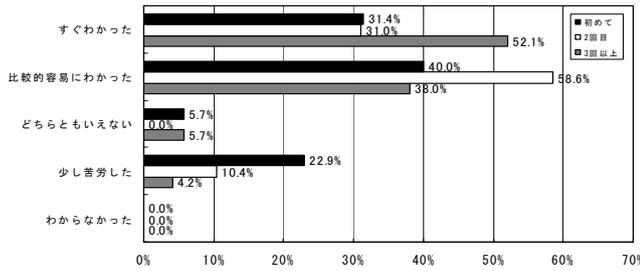


図-4 訪問回数からみた駐車場探しの難易度

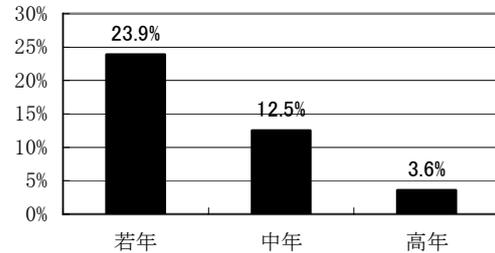


図-6 年代別の危険感覚

バスが多く利用されているのは、ツアーでの団体旅行の割合が高いと考えられる。

次に自家用車、社用車及びレンタカー利用者すなわち、運転者に対して、高山での駐車場探しの難易度について訪問回数別に集計した結果が図-4である。すぐわかった、比較的容易にわかったと答えた人は、全体的に高く、とくに2回目や3回以上といったリピーターがより高いことがわかった。また、少し苦労したと答えた被験者は初めて訪れた人で高く、リピーターの訪問回数が多いほど低い割合であった。このことから高山では駐車場が探しやすいと考えられるものの、初めて訪れた人に対する対策が必要と考えられる。

### (3) 交通事故と危険認知

被験者が交通事故に対する危険認知の感じ方に関しては、図-5に示すとおり、8割強が危険性を全く感じなかった、あまり感じなかったと高い割合であるものの、残りの2割弱はヒヤリとする場面があった、あるいは危険な目にあった・起こしそうになったことを挙げている。ただ交通事故にあった、引き起こしたはいなかった。ヒヤリとする場面があったおよび危険な目にあった・起こしそうになった被験者を3層の年齢階層別に表したものが図-6である。ここでは30歳未満を若年、40～50歳代を中年、60歳以上を高年と区分けした。これをみると、年齢層が高くなるほど、交通事故に対する危険認知度が下がっていることがわ

かった。

## 5. まとめ

本研究では、高山市において観光客を対象とした観光交通に関するアンケート調査を実施した結果、次のような知見を得ることができた。

- ・観光客の経路パターンの類型化と高山での滞在時間は、往復型が目的地を高山と定めて宿泊し帰路につくという1泊2日が多く、回遊型・混合型ではツアーなどでの立寄地の1つとしての短時間の訪問が目立っている。
- ・高山への交通手段と駐車場探しの難易度では、自家用車・貸切バス・JR線で訪れる人で大半を占めており、その他の交通手段による訪問者は極少数であった。また、駐車場探しでは大抵の人が容易に駐車場を探しているものの、初めての人の23%が少し苦労しており、この対策が必要と考えられる。
- ・交通事故に対して危険と感じた人は全体で18%を占めており、年齢層が高くなるにつれて危険認知度が下がっていることがわかった。